御岳山　(3,067m)

毎日新聞旅行　10・11 日

3,000m 級の山に登るのは、2010 年の槍・穂縦走以来ということになる。まあ日本には 3,000m 以上の山は 22 座しかないので、このことはたいして恥ずべき事でもない。剣や白馬よりも高いわけである。しかし 2,150m まではケーブルカー利用であるのでかなりの底上げである。1,973 年にも一度登っている。東京電機大学ワンダーフォーゲル部(WV)の後輩の上原君と彼が勤めていた会社の女の子が 2.3 人ともう一人くらい WV 部の後輩がいたかもしれない。テントを背負って行ったはずである。夜行電車で行ったと思う。あの当時は当たり前のことであった。今回はジーサマ 6 名、バーサマ 6 名であった。ジーサマの中には 86 歳がいたということである。以前良く会ったことのある M ﾄﾞﾘｶﾜさんもいた。彼も腰がまっすぐ伸びなくなっており、“歩き方が遅いからツアーに申し込んでも断られることが多い”とボヤイテいた。86 歳も M ﾄﾞﾘｶﾜさんもなんとか歩いているのに、私といえばヒーコラ言いながら付いて行った。俺にもそのうちツアー参加を断られる日が来るのかも知れない。もっとも M ﾄﾞﾘｶﾜさんの場合は、槍だの穂高だのと、もうやめとけよというところばっかり目指しているみたいだ。槍にも今年登ったと言っていた。ただしこの人は燕から北穂まで一日で歩いたなどとホラを吹くような人なので、話半分に聞いておかねばならない。認知症気味なのかもしれない。俺のように標高 350m の山に登って満足することはない様だ。バーサマの中にはすでに 300 名山も踏破したという S ﾐｽﾞさんもいた。彼女と話をしていたら、俺がバテ切ったあの 2013 年の安平寺にも行っていたということで

女人堂付近の零場

ありかなりの強者であるが、今回は頂上直下の二の池でリタイアした。やはり山では年齢とか経験なんていうものは慮ってくれない。もう一人歩き始めて１時間ほどで足をひねってしまったというジーサマが女人堂止まりとなった。やはり高齢ジイサマ・バアサマのツアーには最上級のケアーが必要なようである。

ツアー風景

押田さんの話によると、御岳山参りとか富士講というものは、ヨーロッパでアルプスのツアー登山が広まる 50 年も前から行われているので、ツアー山行の始まりは日本が最初であるという。零場とか坊さんの像などが腐るほどある。

ツアーリーダーは FaceBook の鬼の押田さん。最近よく合う。“高橋さんも強いですね”と声をかけてきたので、“近頃弱くなっちゃって付いて行くのが精一杯ですよ”と答えたら、“私がガイドをするのは靴マーク２程度が多いんです”と言っていた。サブはジーサマガイドの小林さん、それに新人で子育て終了くらいの主婦かと思われる岡野さんが付いた。

防災シェルター

休憩時間に“櫛形山で会いましたね”と声をかけられた。“櫛形山には行ってません”と答えたら“いや行ってますよ”と自信をもって答えてきた。Sｲﾄｳさんである。歩きながら考えたら、確かにアヤメ平にアヤメがなかったことを思い出した。年寄りというやつは、むかしのことは覚えているが最近のことは忘れがちであるということが当てはまるようだ。俺も認知症が始まっているのかも知れない。

夜８時くらいに小便に立ったら、岡野さんと小林さんが一杯やりながらストーブの前で話をしていた。“星空がきれいですよ”と教えてくれた。ハーフのダウンをひっかけて見に行った。この星空を見るために白内障の手術を受けたのである。太郎兵衛平やヒマラヤやパプアニューギニアで見た降るような見事な星空が忘れられない。歳と共に視力が衰えてきてこれが見られなくなってきた。白内障の手術を受けたら昔みたいに見えるようになったという人がいたので私も受けてみた。確かに手術前に比べたら見えるようになったが、むかしのような感激するほどには戻らない。

そういえば、御岳山登山のためにヘルメットを購入して初めて使った。2014 年の御岳山の爆発以来、槍ヶ岳や塩見岳などのように岩場の多い山では、ヘルメット着用が義務のようになっている。まあそういった厳しい山に登ることももうないとは思うが。